

令和4年度 地域懇談会

1 開催日時 及び 開催場所

令和5年1月28日（土） 午前10時～11時40分
大口町健康文化センター 1階 多目的室

2 テーマ

長く住み続けたい『まち』 と 『まちづくり』 について

3 参加者

地域 22名

大口町

町長 鈴木 雅博

地域協働部長 吉田 雅仁 、 健康福祉部長 小島 まゆみ

政策推進課長 岩田 雄治 、 地域協働課長 大森 恒典

まちづくり推進課長 佐橋 竜午

4 懇談会 進行

総務部長 佐藤 幹広

5 司会進行

秘書広報室 渡辺

6 状 況

始めに、岩田政策推進課長、大森地域協働課長、秘書広報室 渡辺 より
テーマについて説明を行い、その後、懇談会を実施。

懇談内容については、下記のとおりです。

【座長：佐藤 総務部長】

3本続けて、スライドを見ていただきました。少し、まとめだけさせていただきます。今、最初にお伝えした町の財政ですけれども、町長の方から補足で説明させていただいたとおり、財政的には、法人町民税の減収分を固定資産税という形で収入を上げるべく町としては努力をしておるんだということが、まず1点。

それから人口の方は、現在のところでは、まだ減少というところにはなっていません。しかし、全国的に見ると、明らかに減少傾向、少子高齢化という波が、大変強く出ております。

先程の大口町のところでは、合計特殊出生率、いわゆる1人の女性の方が何人子供を産むかというものですと、大体、2.7で計算をしておりますから、今の状況ならでございまして、国の方では1.3というような形です。先日、新聞の中でもありましたけれども、2022年度も77万人というお子さんしか生まれません。

1973年ぐらいで、200万人を超えてお子さんが生まれていたのが、それが今では、77万人と、半分より少なくなっているということですね。そのお子さんが、生産年齢人口となるものですから、当然のことながら働く方というのが少なくなる。その方が、納める税金だとか保険料なんかは、今よりもたくさん払っていただかないと社会がまわっていかないということにもなります。

それで、今、現役でみえる方が高齢者になれば、高齢者はどんどん増えていきます。先ほどの資料でも、20%以上増えていくだろうってことは明らかになっている、そういったことを少しお話しさせていただきました。

そんな中で、豊かであるためにはどうするのかということですが、何も財政だけの豊かさではないところの豊かさもあるのではないかと問題が投げ掛けられています。

それから協働というようなところの切り口で二人目の大森が説明しましたとおり、住民の皆さん方がNPO活動、ボランティア団体として多く活動していただいているこの大口町、そういったこともあって、最終的には最後のスライドで説明しました通り、大口町は、住みやすい、住み心地のよい街という評価を受けているんじゃないかというふうに思っております。

つまり、まちづくりをしてくださる皆さん、団体の方達が、大口町の行政に足りない部分を補っていただいて、或いは、協働でやっていただいている中で評価を受けていると思っております、というのが今日のスライドの3番の補足説明になります。

それでは、時間が、ちょっと押してきておりますので、早速、入りたいと思います。今回のテーマであります『長く住み続けたいまちと街づくりについて』ということに

ついて、これから皆さんからご意見を頂くわけですが、まちづくりの担い手の皆さんでありますので、それぞれ、いろんなことをまちづくりの中で経験されてきたこと、或いは、もうすでに、これ課題じゃないの？ というようなことがあるのではないかと思います。

まず、それを率直に皆さんにお伺いをして、そして、「こんな風にしたらいいんじゃないの まちづくりには」という風なご提言や、「私、町長さんに、こんなことが言いたいんだわね」ということがありましたら、ご発言頂きたいと思いますが、いかがでしょうか？

ありがとうございます。お名前から お願い致します。

【参加者 F】

サラダボールカンパニーの代表をしている F といいます。今日は会員の、一緒に活動している Kさんと 一緒に来ました。

今日、この会に来るっていうことを私たちの会員は知っていて、どんなことを伝えたらいいかなっていうことも代表としてみんなから意見を聞いてますので、それを端折って読み上げたいと思いますが、そんな感じでもいいですか？

【座長】

はい、どうぞ。

【参加者 F】

「まちづくり」という観点から、施設の充実というか、見直しをして欲しいということが出ました。

例えば、プールですよね。あってありがたいんですけども、更衣室がちょっと古かったりとか、あと、調理室の物品がちょっと古いままで、すごく使いにくいなということがあります。古いものを大事に使い続けるっていうことも大事なかもしれませんが、やはり今の子どもたちとか、これから調理室を使って何かを学ぼうという人たちに対して、配慮のある、そういう施設物品の見直しを適宜行っていただけるよう祈っているところです。

今、隣のKさんが 管理栄養士さんで、サラダボールの方の栄養の指導もしてくださってるんですけど、そのことだけ少し付け加えがあったらお願いします。

【参加者 K】

Kと申します。 ここも含めてですね、いろんな地域で、ちびっこ向け、大人向け、高齢者向けなんかの料理教室なんかをやっていますが、大口町に関しては、コロナで

使用期間の制限で、できなかつたっていうこととかですね、あんまり使う人が多くなかつたってこともあるかもしれないんですけども、水が漏れるとか、ゴキブリがいっぱいいるとかですね、衛生面が最悪なんですけれども。

ですので、定期的にチェックをされるだとか、最後に調理器具をチェックするっていう、そちらの方の見直しも含めてやっていただけるといいかなと思っております。

【参加者 F】

はい、調理器具に関して私では分からない視点でしたので、お話してもらいました。

それから、あと、多文化共生の私たちサラダボールは、サラダボールっていう通り、いろんな人種の人と一緒に住めるまちづくり、町を目指して活動していますが、その多分化共生の立場から、外国籍の子供たちがどれぐらいいて、どんな支援が必要なのかっていうような情報があるといいなという意見が出ました。

学校教育課の方から相談があって、まちなえっとさんを通じての通訳とかも派遣したんですけども、その通訳を派遣するにしても、こういう風に通訳するときは、学校では、こういうこと気をつけてくださいねっていうことをレクチャーして、ちょっとした通訳のコツとか、カウンセリングマインドとか、それぞれ、しっかり話をしてから学校に行ってもらってるっていう、そういうところもあるので、外国の人たちが、これぐらいいるよっていうのが分かるといいなっていう意見が出ています。

それから、私たちがメインに活動しているキャリア教育なんですけど、どうしてキャリア教育のことを、今日、話したかったかっていうと、やっぱり、お金がかかるんです。

キャリア教育って、生まれてから死ぬまで全部キャリアなんですよね。発達心理の方からいったら、そういうキャリア教育、幸せに生きて、納得して最後を迎えるところまで、その中で、やっぱり一番大事なのは、生きてるからの教育だろうっていうことで、子供カレッジとか開催しているんですけども、今日も、中日新聞の方に名古屋市がキャリア教育の専門の機関を作るっていうことでびっくりしました。

ほぼほぼ、私たちが考えてることと一緒にことだったので、この記事を読んでいただいて、町の方でも、キャリア教育の推進を考えていただければありがたいです。

町でやると、私たちの中年子育て世代もそうですし、ご老人とか、これから子供を育てるよっていう人も参加して、みんなでキャリア教育を支えられるかなと思うので、今日は発言させていただきました。

【座長】

ありがとうございました。今、いくつか質問でましたけれども、調理室の件で、不十分な点があったことについてどうでしょう。

【町長】

今の調理器具とか、そういうことに関しましては、我々では正直言ってわからん部分があるんです。それで、まさしく、こういう会議を開くことによって、どういう形で誰に伝えたらいいのかっていうことを、皆様方、分かっただけだと。しかし、その場ですぐできるとは限りません。

本日、女性議員もおられますが、予算が通らんことには、予算をもらわなくては物は買えない。

今日、お聞きした話を形にしていくのは、今後、やって参りますけど、例えば「包丁何本いる？」って言われても我々では全然、分かりませんし、現実に使ってみえる皆さんが、何に要って、どれだけ要るのかっていうのは分かりません。

対応できることは対応させていただきますが、最低限、このぐらいはいるんじゃないのかなってというようなことを、お話をさせていただくといいのかなという風に思っています。

先程の、衛生上の問題も出てましたけど、こちらの方も、よく気をつけて やってみたいこうと思います。

【参加者 F】

最低限という意味では水漏れですね。調理器具については分からないということをおっしゃっていましたが、それが私が今日、ここに来て喋る意味だというか、女性の目線で言っておりますので。

スタッフの人たちの心構えとか、合わせて器具をチェックするとか、最後に係の人が来て点検をする。そういったことでも不衛生の状況っていうのは避けていくことができますので、そういったアドバイスみたいなこともできますので。また、何かありましたらご用命いただければと思います。

【町長】

是非、「これだけやってくれ」っていうのを書いといてもらおうと、いいかなって思ったんですけど。それと今のゴキブリに対してもそうですし、水漏れは正直、すぐに治さなかんってことなんで、水漏れの件に関しては、学校教育か生涯学習に直ぐに申し伝えます。よろしくをお願いします。

【座長】

ということで、施設のところで不具合があったところについては、担当課の方にもっていかせていただいて、改善をして参ります。

それから、プールの更衣室につきましては、要望ということで、そちらについても、

状況を確認させていただいて検討させていただきます。

次は、2 番目に言われた多分化共生について、そういった子供さんの情報があるかっていうようなことを尋ねられたと思いますけども、それについては如何でしょうか？

【地域協働課長 大森】

多文化共生について、私の方からお話させていただきたいと思います。

いろいろ、ご指摘があったように、外国人の方本当に増えてます。人口も増加していきまして、その内訳をみると、実は外国人の方がかなり増えてたりしているんですね。

昔と比べると、以前はポルトガル圏の人が 1 番多かったんですけど、今はベトナム人の方が本当に多くの割合を占めています。入管法が変わり、これから先、家族の帯同が可能になるので、国から家族を呼び寄せるような方も増えてくるんじゃないかと思っております。

そうした中で、大口町のサラダボールさんの他にも、Cereja カフェのみなさんや、あいうえ Oguchi の皆さんなど、子供たちの学習支援に携わってくださっている方がいて、学校教育課と学校と連携しながら取り組みを進めてくださっています。

外国にルーツを持つ方たちの子供たちの支援については是非ですね、こちらの方でお願いできるような情報もありますので、そこは、是非、ざっくばらんにご照会をしていただけたらなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

【座長】

はい、最後に、キャリア教育ということでご意見がございましたが、本日、教育部局の者がおりませんので、今日はキャリア教育の推進についてというようなご要望という形で受け止めさせていただき、それにつきましては、また持ち帰ってですね、検討させていただくということにさせていただきたいと思っておりますので、すいませんがよろしく願いいたします。

それでは、他の方からのご意見を頂戴したいと思います。せっかくの機会でございます。自分がやっている団体がまちづくりのところで気づいたこと、或いは、地域の中でこんな問題があるよってということでも結構でございますので。

【参加者 A】

すいません。私、仲沖に住んでるんですけども、町内バスですね、町内バスの頻度が全然少なくて、使いたくても出かけたらもう帰れないっていう状態なので、せめて、柏森の駅に行くぐらいとか、買い物に行くぐらいのバスが 1 時間に 1 本ぐらいあるといいなと思っておりますが。 私の意見を聞いていただけるとありがたいです。

【座長】

町内に巡回しているバスなんだけども、ちょっと時間があきすぎて、使いづらいよってというご意見ですね。

【地域協働部長 吉田】

コミュニティバスの件で、今、お尋ねをいただきました。

確かにご指摘の部分は伺ってはおりますけど、何せ、財政的に運営していくためには、やはり運行ダイヤだとか利便性だとか、そこら辺で両立できるような、そういうところで運行ダイヤを決めております。

年間を通して利用者数をうちの方でもデータ取りつつ、利用度に合わせた運行ダイヤを定期的には変更しつつも、運用していくという上で、皆さんの暮らしの足に近づけられるように努力していますので、こういったルートではどうでしょうか？っていう、そういったご提案を具体的に頂けるようであれば、1度こちらの方も検討させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【町長】

帰ってこれないって、どういう意味ですか。

【座長】

間隔がありすぎて、自分の戻りたい時間に帰れないということです。

これも巡回してまして、町内4ルートを使って行ってますけど、朝は7時半から夜9時まで、ずっと日曜日もやってまして、なかなかそんな中で皆さんにご要望をお聞きできなかったということは確かにあるかもしれません。

【参加者 A】

高齢者社会になっちゃって、みんな免許を返納したりとかして、足がないと買い物にも行けないということで、できれば、本数を増やしてもらいたいけど、財政的なことを言われるとなんともならなくなるんですけど。車がないと不安です。

【座長】

特に外出の機会も減ると、足腰も弱くなっちゃいますし、どうしても気持ちもめいってしまいますのでね。なるべく出掛けていただきたいと思います。

【参加者 A】

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

【町長】

巡回バスの件なんですけど、そろそろ、一度、見直しをかけなきゃいかんのかなってところがあります。テレビでなんか見ていただきますと、デマンドバスとか、新たなバスの運用方法ってのが研究されたり、それこそ無人であったりとかいう話も出てきてますので、例えば、本当に巡回だけでいいのか、何処と何処とかをやらなきゃダメなのかっていうようなことを、今後は、何年間かかって大口町としても検討はして、少しでも利便性を上げる方向性っていうのを見い出していきたいなと。

ちょっとまだ全部は時間がかかるかもしれませんが、そういう意味でも、そういうところにも目をつけながらやってることだけは、ご承知おきを願いたいというふうに思ってます。

そしてまた、今は中心が、ここ健康文化センターが、大体、発車と戻ってくるものの中心になってますけど、それも、そこでいいのかっていう話になりますので、そこら辺のところも考えてはいこうと思ってますので、もう少しお時間を頂戴しながらというふうに思っておる次第であります。

【司会】

はい、ありがとうございます。そしたら次の方。

【参加者 B】

今日は、大口町商工会女性部の方から出席させていただいております。私は大屋敷で化粧品の販売と、ネイルの仕事をさせていただいてますが、今度3月末に、桜マルシェに応募しまして参加させていただくことになりました。

桜マルシェなんですけども、今回初めてそういう企画をやってくださるということなんですけども、是非是非これからもずっと続けてやっていただきたいなと思って今日、来ました。運営の方はすごく大変だと思うので、もし、軌道に乗りましたら参加する者たちで運営できるようなシステムを作ってください、2ヶ月に1度とか、3ヶ月に1度とかやりたいなって思いますので、是非続けてください。

よろしくをお願いします。

【座長】

はい、ありがとうございます。

【町長】

前からやりたかったんですけど、実際のこと言ってコロナのせいで、ほんと何にも出来なかったのはありますよね。キッチンカーも今度、出しますけど、これも3年

～ 4 年ぐらい前からずっとあっちこっち行って研究していて、さあやろうかと思っ
たら、いきなりコロナのスタートみたいな話になってということでありまして、今回
60 周年の記念として、そこをスタートという形で、失敗するのか成功するのか、
みなさんに来ていただけるのか、これは今後の事っていうことを考えてます。

まず、とりあえず、今回 60 周年の記念事業としてという名目の中で皆さんにお手
伝いいただき、また出店していただき、色んなことをしていただいて、是非これは
役所から、我々がこう提案はさせていただくんですが、継続して続けていただくのは
我々ではありません。出店していただく皆さんや、そこに参加して協力していただ
ける皆さんのお力をお借りしないことには絶対的にできませんので、皆さんのご協力、
そして、これだったらやれるから我々でやってみようかっていう団体の皆さま方、
例えばそういう団体がいくつか集まっていたら、今後の運営は、是非皆さん方に
こちらをやっていただく。

新しいものを考え出すってことに対して役所ってというのは、予算があってそこから
出来てくるっていうところなんで、そういう意味では新しいものを創設する時の、
一番の苦しさをいうのは、皆様方が一番よく知ってみえると思いますんで、そして
継続っていうことに関しては、是非、お力をいただければありがたい。

そのマルシェに関しましても、できる限り、やってまいりたいとは思っているんで
すけど、そのノウハウは、我々よりも皆さんの方が、沢山お持ちだと思いますので、
是非、力をお貸しいただいて、継続していただけるような形にさせていただけるよう
お願いを申し上げる次第であります。

【参加者 B】

ありがとうございます。さっき「大口町に住みやすいランキング」っていうのに
あったように、地域のイベントやお祭りが 63. 2とありましたけど、私の知らない
だけなのかなと思ったんですけど、近隣のところ、岩倉市さんとか、小牧市さんとか
犬山市さんとか、もうちゃんとできてみたいなのがあるんですね。

そういうのを立ち上げたいなって思ってたんですけど、なかなか 1 人ではできなく
て、ちょっとずつ、声かけてるんですけどね。なので、是非是非！まあ最初だけ、
取り掛かりだけやっていただいたら周りの人たちとやりますので、是非、あと場所を
貸してください。よろしくお願いします。

【参加者 I】

子供の文化の森の I と申します。今日はありがとうございました。

あの今、部長さん方の話とか、町長さんの話をお聞きしておりまして、随分、前の
ことになってしまいうんですけども、合併しなくて良かったなってすごく感じました。

大口のまちで、豊かに暮らしていく、あの住民の皆さん、とてもいいなって思いました。そして、町民と行政の協働のまちづくりが、ちゃんと少しずつ進んできて、今、花開いているなということ、すごく活動しながら感じています。

人口も減少に変わらず移行していくという話を聞いてとても心強く思いました。そして、実は私事になるんですけども。火曜日に瀬戸の小中学校の一貫校を視察して来る機会がございました。9年生の小学校です。素晴らしい建物で、コロナが発生した令和2年に開校した学校なんですけれども、瀬戸は、その学校に入りたいがために転入してくるといって若い世代が多いって話を聞きました。

大口町も、先ほど「住みやすい街ランキング」っていうところで、学校施設ですとか、保育園の施設が充実していることで、満足度が70と高い割合を占めていました。

ここから、内容が大切じゃないかなと思います。

教育そして保育内容が、今以上に充実していること、子供達にとって魅力のある学校生活、保育園の生活が送れるような、そういうことに力を入れていただきたいなと心から願っています。

予算も1割とってくださっていて、ここは減らさないようにしたいっておっしゃったんですよ。努力ができないでしょうか。というところをお尋ねしたいです。

あの是非是非、教育の充実、望みたいと思います。よろしくお願いします。

【座長】

はい、ありがとうございます。教育の充実というようなことですけど、どなたか、お答えはできませんか？

【政策推進課長 岩田】

予算の話ですので、私の方からお話ししますが、減らさないようにって言ったのは、増やすことも含めてということももちろんあります。

特に教育に関しては、教育の現場の方から上がってくるような案を、できるだけその通りに通したいなと思うんですけど、当然全体のバランスがあるので、そこでちょっと我慢してっていうところがあるかもしれませんが、できるだけおっしゃるように教育のところには予算等、付けていくということです。

希望の通りに出来るように、全体のところではしていくつもりです。

【座長】

国のほうも、岸田首相が、異次元の子育て支援みたいなことを打ち出して、今、少しずつ、経済的な支援をしていこうというふうな報道も流れております。

多分、おそらくこれから少子化っていう流れの中を、全体で食い止めるために大き

くそちらの方に舵を切られると思いますので、私共といたしましても教育・保育でそういった面で財政的な面もそうですし、人の面でも、そういった面では住民の方にもご協力をいただきながら、進める施策も出てくるかと思っておりますので、そのところは、重々 受け止めてやりたいという風に思っております。

取り掛かりが遅く、皆さんに十分にお話をいただけませんでしたがお時間になりましたので、これで終わらせていただきます。

こちらの方でメモをしておりますし、録音の方もさせていただいておりますので、皆さんの発言されたことは、確認をして進めていきます。もし言い足りなかったことがありましたら、アンケートの中に書いていただきまして、お帰りいただければと思っております。

つたない進行で、皆さんには十分なお発言をいただけなかったかもしれませんが、これで、わたくしの役目を終えさせていただきます。

ありがとうございました。